

# エコライフスタイルの発信基地として 道の駅やいた

## エコモデルハウスボランティア協議会

平成二十二年四月のオープン以来、約千五百人ほどが見学に訪れているエコモデルハウス。

その、エコモデルハウスを活用し、地域のみなさんがエコハウスへの理解を深めるための支援などを行うことを目的に、現在十人の会員が活躍しています。

主な活動は、道の駅の事業計画に入っているイベントに対する参加・協力、エコモデルハウスの解説、普及促進活動、まきストーブの燃料供給などですが、道の駅オーブンのあかつきには、さらに多くの来場者への対応が必要になってくるのが予想されます。

このボランティア協議会の会長も務めている高野茂さんにお話を伺いました。

### ●エコライフスタイルの発信基地として

エコモデルハウスは、矢板のエコな建物、エコな暮らしと生き方やあり方、可能性などについて楽しく学び、実践できるエコライフスタイルを探するためのモデル・発信基地としてあるものです。

全部参考にするのではなく、利用、使用できるものを使え



高野茂会長

るようにして、環境に留意してのライフスタイルを考える拠点、勉強の場として使えると思います。

### ●資源、エネルギー、環境は重要なテーマ

現在参加しているメンバーは、五十代から六十代。宇都宮市、さくら市、大田原市など市外のメンバーも三人ほどいますが、環境問題に深く関心を持っていきます。資源、エネルギー、環境はやはり重要な問題です。エコモデルハウスには電気自動車用の充電器も設置されましたが、ここへ来て急速にエコは進んでいると感じています。

### ●小さいうちから関心を

エコモデルハウスの活用ポイントとして、これからは小中高校生を対象に、学習を通してエコを学ぶ場を作るべきだろうと思います。

資源、エネルギー、環境の問題は、人間の意識の問題でもありますから、小さいうち

からそういつた意識を持つてもらう必要があります。

金がない、人がいないではなく、多くの人とタイアップして、例えば、栃木県温暖化防止活動推進員などの制度があるのだから活用すればいいと思います。

道の駅のコンセプトでもある地産地消や、食糧自給の問題、環境・エネルギーの問題など我々の生活そのものを考え直す必要があります。「豊かな生活とは何か？」を見つめ直し、質の豊かさを考え、「がまんする、もったいない」という気持ちを子どもたちに植え付け、エコライフスタイルを考える拠点、勉強の場として使っていけると思います。



みんなで薪割りに汗を流します

ストーブの火に癒されます ↓

# 市役所「いびとをなつていく」

名前のとおり、商工業の発展のために「企業誘致」などを行ったり、「ふるさとまつり」の事務局を務めたり、「矢板の工業と観光物産展」を開いたり、県などと連携し、「とちぎの元気な森づくり事業」を行ったりと、「矢板に住んで良かった」と思ってもらえるかどうか、そこに具体的に関わっているのが商工業観光課です。磯課長にお話を伺いました。

## 矢板の活性化のために広い守備範囲で頑張る 商工林業観光課

### ●やいたブランドでPR

「やいたブランド認証事業」は、市内の優れた農産物や商品をブランド化し、地域経済の活性化と市のイメージアップを図るためにスタートしました。今後は、全国的なイベントや物産展などで大いにPRする予定です。また、ブランドの定着や信頼性を高めるため、地産地消も推進していく計画です。市内のお店で、認証となった「リンゴ」や「イチゴ」をデザートとして使っていたり、生産者と菓子店とのコラボレーションも進めていければと思っています。「やいたブランド」を通じ、矢板を気に入っていただき、ひいては矢板に住んでいただければ幸いです。



まちづくりを進めていく手段の一つに交流人口を増やすというのがあります。まさに観光は、それに当たると思います。矢板には、全国に誇れる八方ヶ原や長峰公園など、素晴らしいところがたくさんありますので、もっと知っていただくよう、さらなるPRを行い、誘客に努めたいと思います。

### ●やりがいは…？

「やいたブランド認証事業」や「八方ヶ原の観光活用」など、もっともっと進化させることにより、活性化が図られ、市のイメージアップも図れると思っています。難しい課題はたくさんありますが、何とか実を結ぶよう、課を挙げて全力で取り組んでいきたいと思っています。

### ●商工会との連携を強化

まちを元気にするには、空き地や空き店舗の活用が急務です。そのためには、商工会と一層の連携が必要であり、また、土地を所有している方のご理解もいただかながら進めていければと思っています。その段階で必要であれば、市内の人ばかりでなく、他からも「やる気のある人」を誘致したいと思っています。